

=====

ROS3/EDI シリーズ 更新モジュールリリースのご連絡

=====

平素は、弊社パッケージをご利用いただきありがとうございます。
この度更新モジュールをリリースいたしましたのでご案内させていただきます。

////////// リリースノート //////////

対象パッケージ 総称 : ROS3/EDI

パッケージ名称詳細 : ROS3/EDI V7M1 PTF18
全銀 TCP/IP・広域 IP 網オプション
FTP オプション
FTPS オプション
SFTP オプション
WebEDI オプション
HULFT 連携オプション
JX オプション
ebXML オプション
ZEDI オプション

リリース日 : 2024/10/25

適用OS : RedHat Enterprise Linux 8.6
RedHat Enterprise Linux 8.2
Oracle Linux 8.6
Oracle Linux 8.2
Amazon Linux 2
Windows Server 2022
Windows Server 2019

出荷形態 : DVD-ROM

変更内容一覧)

- ・FTP/FTPS/SFTP において可変の伝送ファイルパスを扱えるように機能追加しました。
- ・SFTP の伝送ファイルクローズ処理と伝送チャンネルクローズ処理が非同期に行われても、伝送が継続できるように機能を追加しました。
伝送ファイルクローズ処理なしで伝送チャンネルクローズ処理が行われた場合に、ファイル成立する機能を追加しました。
- ・FTP/SFTP の起動/応答受信でエラーが発生し、受信したファイルが存在する場合、受信ファイルを削除するように仕様変更しました。
- ・SFTP の「ネゴシエーションのアルゴリズム」を「鍵交換アルゴリズム」と表現するように変更しました。
- ・SFTP の「サーバホストキーアルゴリズム」を「ホスト鍵アルゴリズム」と表現するように変更しました。
- ・SFTP の鍵交換アルゴリズムに「diffie-hellman-group14-sha256」を追加しました。
- ・SFTP のホスト鍵アルゴリズムに「rsa-sha2-512」、「rsa-sha2-256」を追加しました。
- ・全銀 TCP/IP・広域 IP 網/FTPS で「伝送リトライ：有効」で相手に接続出来なかった後のリトライで、開局通知が上がらない事象に対応しました。
- ・全銀 TCP/IP・広域 IP 網/FTPS で「伝送リトライ：有効」でエラーが発生した場合、リトライで正常完了したにも関わらず、伝送異常で終わってしまう事象を修正しました。
- ・全銀 TCP/IP・広域 IP 網の固定長の受信において、「テキスト再送フラグ」を「再送しない」と設定している場合、テキスト長チェック処理をしないように仕様変更しました。
- ・全銀 TCP/IP・広域 IP 網の送信ファイルで「テキスト再送フラグ」を「再送しない」とした相手から再送要求を受信した場合、伝送エラーとし、「再送する」と設定した相手から再送要求を受信した場合、テキスト再送を行うように仕様変更しました。
- ・全銀 TCP/IP・広域 IP 網の伝送ファイルの設定を更新するときに、サイクルファイル情報を初期化しないように仕様変更しました。
- ・JOB ファイルの登録/更新時に、固有パラメータに対してトリム処理をするようにしました。
- ・impexp ツールで「-d」指定時に出力するファイル名が固定のファイル名で出力されてしまう問題を修正しました。
- ・impexp ツールでメッセージデータをエクスポート時に、作業用の一時フォルダが削除されない問題を修正しました。
- ・DELEFILE コマンドで、メッセージデータが存在しない場合にエラーとなる問題を修正しました。
- ・状況照会-システムログ画面の内容を SYSLOG としてログ出力するよう対応しました。
- ・PostgreSQL のログを週単位（最大 7 日間）ではなく日にち単位（最大 31 日間）で出力するように変更しました。

適用される修正モジュール)

- ・ ROS3/EDI

注意点その他)

- ・ 使用するミドルウェア、PostgreSQL/Tomcat/Apache/Open JDK は製品に同梱しています。

////////////////////////////////////

本件に関するお問い合わせは、弊社パッケージサポートセンターまで
ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

以上